

特集1 温泉の恵みと力をつなぐ

日本には、約3千カ所の温泉地が存在していますが「いわき湯本温泉」は、数多ある温泉の中でも日本三古泉の一つとして、千年あまりの歴史を誇っています。

湯本温泉の魅力は何といっても泉質です。全国的にも珍しい3種の混合泉で「美人の湯（美肌効果）」「心臓の湯（血圧降下作用）」「熱の湯（保温効果）」といった数々の優れた効能を併せ持っています。

日本には古くから温泉の効能で病気の症状改善や療養を行う「湯治」という習慣がありますが、優れた泉質を持つ湯本温泉は湯治の名所として、長い歴史の中で発展を遂げてきました。

しかし、時代の流れや社会経済の激動の中で、温泉利用者は団体から個人へと変化し、国内における温泉地の衰退も少なくありません。

近年では、東日本大震災や新型コロナウイルスの拡大によって湯本温泉も深刻な影響を受けています。

本特集では、度重なる苦境に立たされたながらも、湯本温泉を守り、後世へつなぐために奮闘している女将たちの思いや取り組みなどを紹介します。



愛する温泉のために

東日本大震災による影響で大幅に減少した観光客数。一人の力、一つの旅館の力では乗り越えられない絶望的な状況。

かつて、石炭産業の斜陽化から炭鉱のまちを救ったフラガールのように「愛する湯本温泉を後世に残すために私たちに何ができるか」を模索。温泉の持つ和の文化とフラの文化を融合させた「フラ女将」を誕生させるとともに「フラのまち宣言」を行い、湯本温泉の新しいブランド化に取り組んでいる「いわき湯本温泉湯の華会」の女将たち。今もなお新型コロナウイルスの影響によって苦境に立たされたながらも、愛する温泉を守るため、女将たちの奮闘は続いています。

▼里見さん 「震災後1年4カ月休業してたんですけど、この先どうしていいかわずと悩んでいました。そんなときフラの練習が始まると聞いて、参加してみたらみんなすごい前向きで、一緒に活動していく中で、自分も前向きになれたのがすごく大きいです」

どんな苦境でも諦めない。



湯の華会

若松 久美子さん (吹の湯旅館)

若松 佐代子さん (雨情の宿 新つた)

小井戸 文恵さん (旅館 こいと)

里見 郁子さん (古滝屋)

私たちは一人じゃない。

▼若松（久）さん 「女将同士のつながりがあり、楽しいからやっているし、お互いが抱えている悩みが似ていて相談しやすいので、また頑張ろうと思えます」

▼若松（佐）さん 「自分の旅館だけでなく、まち全体がにぎわうようにしたいです。そして、まちに住んでる人たちが自慢できるような、誇りに思ってもらえるような温泉地にしたいです」

▼小井戸さん 「子どもたちがいずれ大人になった時に、このまちを守り、愛してもらえようように取り組みを頑張っていきたいです」

強さと優しさ

同じ痛みを持ち寄り、励まし合って、手を取り合いながら数々の困難を乗り越えてきた女将たち。

こうした支え合いの中で育まれた強さと優しさが、長い歴史を持つ湯本温泉を守り続けていきます。

温泉という自然の恵みとそれを支える女将たちの絆に出会える場所「湯本温泉」。

ぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか。

温泉入浴を支援

台風第13号による被災者の方や災害ボランティアの方たち向けに、さはこの湯公衆浴場、みゆきの湯公衆浴場、いわきゆったり館およびいわき新舞子ハイツを無料で入浴できるようにしました。

また、湯本温泉の各旅館においても、災害ボランティアの方たち向けに、入浴料金の割引支援を行いました。

まずは、日帰り温泉から

本市の大切な資源である湯本温泉。こうした温泉が身近にあるということはとても贅沢かもしれません。湯本温泉には、日帰りで楽しめる温泉施設がたくさんあります。岩風呂や檜風呂、露天風呂など、バラエティーに富んだ温泉が楽しめます。

旅館 こいと	☎42-2151	ホテルいづみや	☎43-2216
古滝屋	☎43-2191	吹の湯旅館	☎42-2158
雨情の宿 新つた	☎43-1111	旬味の宿 うお昭	☎43-2363
岩惣	☎42-2135		
温泉民宿 桜由	☎38-4402		
スパホテルスミレ館	☎42-2155		

詳しくは、こちら▶



温泉は地域の誇り